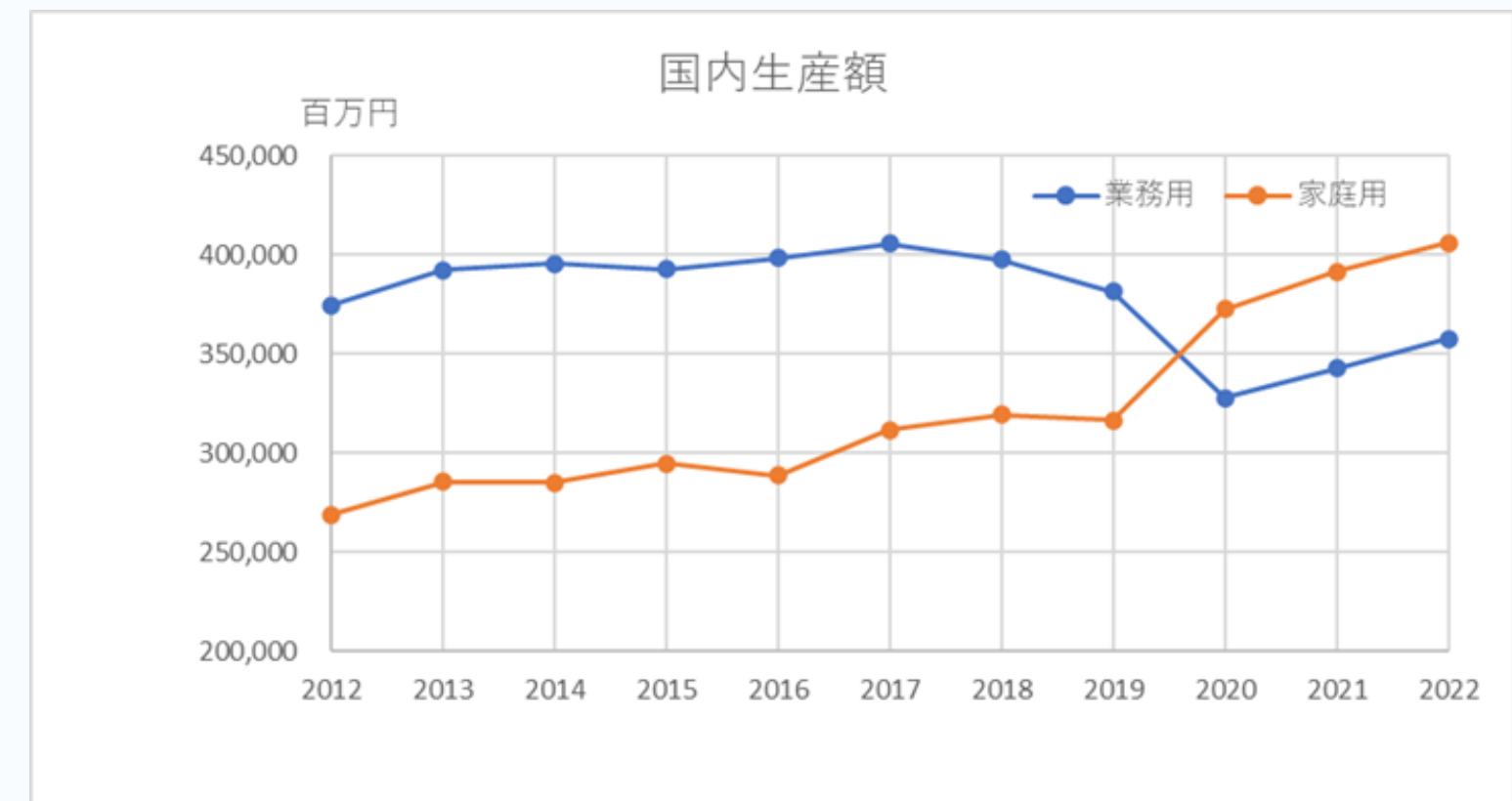
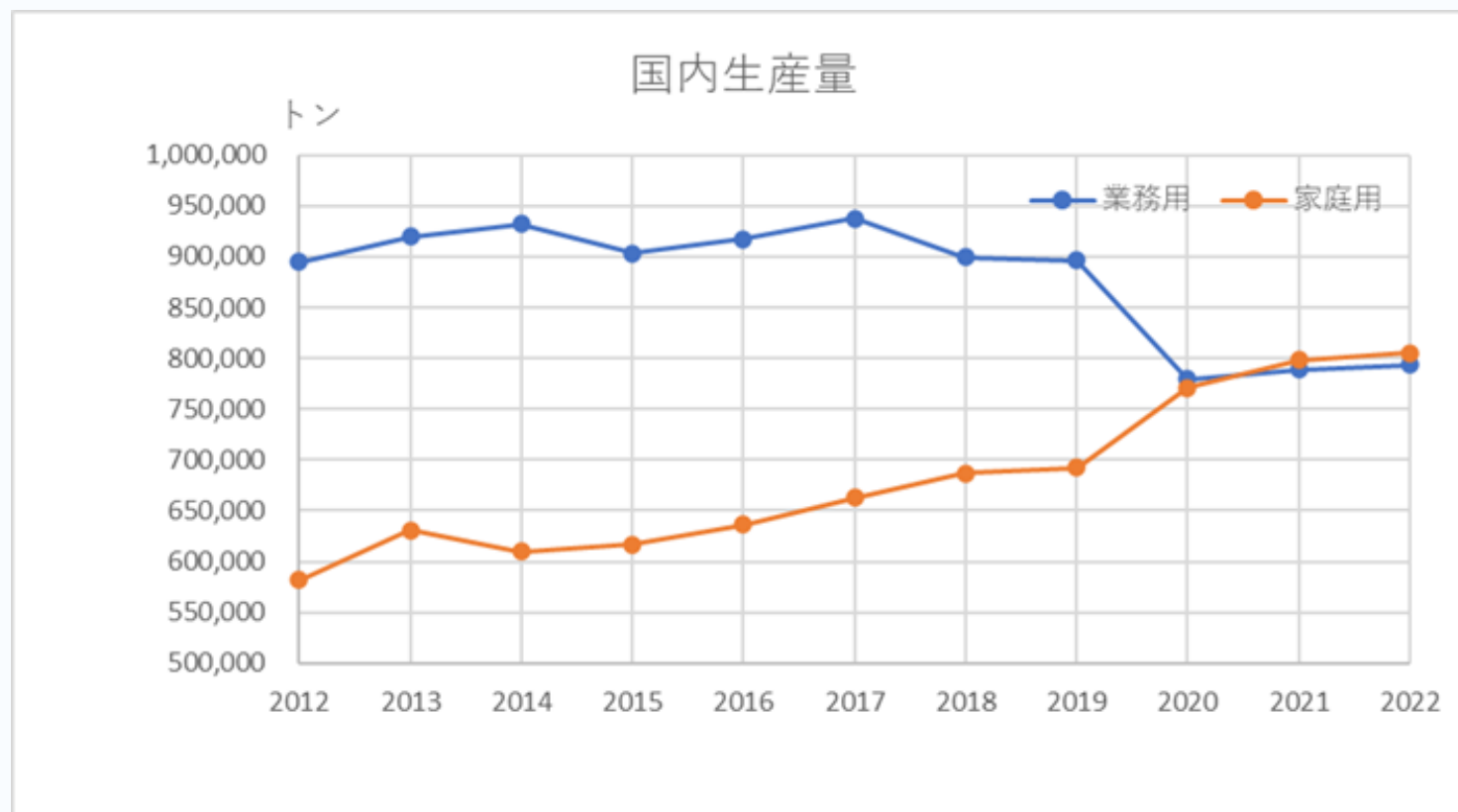


冷食ブーム

新型コロナ感染拡大によって巣ごもり需要などによる近年の内食・中食ブームは、冷食（冷凍食品）業界に大きな変化をもたらしました。

下図は、日本冷凍食品協会のデータですが、家庭用の冷凍食品国内生産が数量、金額ともに業務用を上回ったのです。



家庭用冷食の利用は、ネットスーパーなどからの宅配が増えており、急増する多頻度小口配送の要因の一つと思われます。

多頻度小口化は、大型の冷凍車ではなく、軽やEVで保冷ボックスを使った配送手段が選ばれることが多くなります。冷凍食品の輸送を守るための低温保冷剤の出番はますます増えそうです。

ちなみに、業務用、家庭用の国内生産と輸入量の総量（2022年）を日本の総人口（22年12月1日）で割ると、1人あたりの年間消費量は24kg。

しかも、この数値は協会会員だけのデータですから、商社や卸、小売り、メーカーなどの独自に輸入、生産、販売実績は含まれていません。